

株主メモ

決算期
定時株主総会
公告掲載方法

3月31日
6月
電子公告（ただし、電子公告による
ことができない事故その他のやむを
得ない事由が生じたときは、日本経
済新聞に掲載する方法により行う）

株式上場取引所

東京証券取引所市場第二部
（証券コード：3392）

株主名簿管理人

〒103-8670
東京都中央区八重洲一丁目2番1号
みずほ信託銀行株式会社

ホームページ

<http://www.delica.co.jp>



第4期 中間報告書

平成18年4月1日

平成18年9月30日



デリカフーズ株式会社

証券コード：3392

● デリカの志詩(うた) (大根の詩)

大根はデリカフーズです

大根は、
生よし、煮てよし、漬けてよし
葉よし、根よし、すべてよし

だから大根はデリカフーズです

デリカフーズは大根です

大根は野菜の代表です
中央アジア
千年以上も昔に中国を経由して日本に土着しました
春の七草 ~ すずな、すずしろ、せり、なすな、
ごきょう、はこべ、ほとけのざ ~

大根はすずしろ(清白)です

清らかな心が洗われる感じがします

白はどんな色にも染め上げることができます

お客様、仲間、誰れの意見も素直に謙虚に聞くことができます

だからデリカフーズは大根です

デリカフーズは大根役者です

大根の“しろ”と素人の“しろ”とから生まれた二流の役者です
主役を引き立てる脇役に徹し謙虚にひたすら努力する役者です

あるときは農夫として

あるときは科学者として

あるときは哲学者として

またあるときは詩人として

汗を流しつつ、夢を追い続ける**大根役者**です

CONTENTS

株主の皆様へ	1
中間事業報告	2
今後の経営戦略	4
中間連結財務諸表	6
中間連結貸借対照表／中間連結損益計算書／中間連結キャッシュ・フロー計算書／中間連結株主資本等変動計算書／子会社	
中間財務諸表	10
中間貸借対照表／中間損益計算書／中間株主資本等変動計算書	
連結財務ハイライト	12
会社概要／株式情報	13
会社概要／株式状況／役員	

株主の皆様へ

株主の皆様におかれまして、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。平素は格別のご支援並びにご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。

超高齢化社会を迎える日本では、高齢者がいかに健康な生活をおくることができるかが、重要なポイントになります。また、生活習慣病や要介護者の増加により、医療費が増大し、国家財政を圧迫しているのが現状です。この流れを止めるために、医学会では治療医学から予防医学へ、栄養学ではカロリー栄養学から分子栄養学へと変化しはじめています。

最近、マスコミや新聞等で大きく取り上げられるメタボリックシンドローム(内臓脂肪症候群)は、脂質や糖の代謝異常など食生活や運動不足、ひいては遺伝などが原因で病気が発生しております。私たちの食生活は「飽食」と言われるように、カロリーは十分に足りていますが、一方でそれを代謝させるために必要なビタミン、ミネラル、酵素、補酵素、微量栄養素等が不足しています。

このビタミン、ミネラル、酵素、補酵素、微量栄養素こそが野菜の中に含まれており、特に旬の野菜の中に多く含まれていることが当社グループの研究の中でわかってきました。葉やサプリメントではなく、健康な土壌で生まれた健康な野菜をたくさん食べることが健康な体を作ることになります。

そのために、野菜を外見や形がそろっているという観点ではなく、野菜の中身を評価するべきと考え、当社グループは研究開発をおこなっております。野菜の持つ力(抗酸化力、免疫力、解毒力)を測定し、健康な野菜を生産し消費していただくことが、日本の農業の発展と国民の健康につながり、日本の食糧自給率を高める手立てだと確信しております。これを当社グループでは「野菜ルネッサンス」と掲げて研究開発しております。

人間は本来、生まれた土地で作られた食物(野菜)を食べ、身体が作られます。「身土不二」という言葉があります。土から食物が作られ、身体になる。土と身体は同一のものであるという考え方です。日本人の体に必要な栄養素は日本の土に存在します。その健康な土地からできた食物(野菜)を食べれば、日本人を健康にすることができます。その土地からできたものを食べて生活することを「地産地消」と呼びます。日本人は、この地産地消を実践すれば、食糧自給率を向上することができるのではないかと考えます。そのためには生産効率重視によって失われつつある生態系を取り戻し農作物の生産力を上げる必要があります。

この企業理念に基づく、地球規模で考えた“食”を通じて健康と環境を創造し、農業の発展に貢献し、事業拡大に精進してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長

徳本 魚丸



●当中間期の業績

外食産業におきまして、2006年上半年期の既存店の売上高は、前年同期に比べて0.8%上回りました。米国牛肉の輸入再開や、健康を考えた食事指針や食育に向けての国の取り組みが外食産業・中食産業に向けて追い風になっていると思われます。しかし、業態によっては依然厳しい状況となっており、当社グループの主力顧客であるファミリーレストランや居酒屋などは売上減少しております。

青果物業界では、食品の安心安全に対する取り組みとして、食品衛生法の改正による「ポジティブリスト制度」(注1)の導入や、農林水産省の「外食における原産地表示ガイドライン」の推進があり、その対応に追われております。また、7月の長梅雨の影響で畑の冠水や日照不足がおり、葉野菜(注2)を中心に7月の下旬から8月にかけて、例年に比べて出荷量が減少し、価格が高騰しました。

当社グループにおきましては、天候によって左右されやすい青果物業界の中にあっても安定した物量を確保するため、生産者との結びつきを強化しております。業界独自のデリカフーズグループ仕入販売システム(生産者-デリカフーズ-ユーザーの連携)は、生産計画と契約に基づく生産者との間で安定価格の青果物の確保を行い、必要な商品と量と納品時間をユーザーと情報交換し、安定価格・安定納品を提供しております。

当中間連結会計期間におきましても、天候不順による影響を最小限に食い止め、信頼を得ることができたため、売上・利益共に順調に推移することができました。また、前述しました「ポジティブリスト制」や「原産地表示」に対するユーザーの要望に対しても、生産者との結びつきを強化し情報の交換を頻繁に行うことにより、スムーズに対応することができました。

以上により、当中間連結会計期間の業績は、売上高9,930百万円(前年同期比3.8%増)、経常利益は325百万円(同24.1%増)、中間純利益は200百万円(同24.9%増)となりました。売上増の主な内容につきましては、東京デリカフーズ(株)が前年同期比2.5%増、名古屋デリカフーズ(株)が8.5%増、大阪デリカフーズ(株)が5.3%増となっております。

(注) 1. 基準が設定されていない農産等が一定量以上含まれる食品の流通を原則禁止する制度。(厚生労働省 平成18年5月29日施行)

2. 葉野菜とは、レタス・サニーレタス・グリーンカールなど、葉や茎の部分を食用とする野菜です。実を食用とする果菜類や、根を食用とする根菜類に比べて、雨の影響が大きくなる傾向にあります。

〈部門別の業績説明〉

・カット野菜部門につきましては、天候不順により野菜の歩留りが安定しないこと等が要因となり、需要が伸びました。

この結果、売上高は2,948百万円(前年同期比15.4%増)となりました。

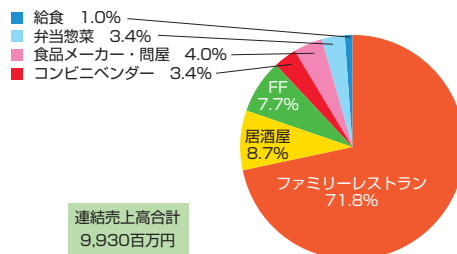
・ホール野菜部門につきましては、ポジティブリスト制や原産地表示に対するスムーズな対応が売上増に貢献できました。また、

天候不順によって価格が高騰したこと、歩留まりが悪くなったため出荷量が増加したことでも売上増に寄りました。

この結果、売上高は5,376百万円(同1.9%増)となりました。・その他部門につきましては、日配品は伸びましたが、委託販売が伸びず、売上高は1,605百万円(同7.4%減)となりました。

顧客別売上高(連結)構成比

平成19年3月中間期



連結売上高合計
9,930百万円

●通期の見通し

当社グループは、生産者-当社グループ-顧客という三者一体の経営地盤を強固なものとし、あらゆるニーズに応じていく所存であります。卸売市場法改正、ポジティブリスト制、原産地表示、食品リサイクル法実施は、当社グループにとりまして、追い風と捉え、顧客と生産者との信頼関係強化のもとに、売上拡大に努めてまいります。また、工場やセンターでは、ジャスト・イン・タイム生産方式導入によるコスト削減や、社員の教育を行って企業価値を高めていく所存であります。

また、デザイナーフーズ(株)の野菜評価の研究(野菜の抗酸化力、免疫力、解毒力の評価)も順調にすすんでおります。このような野菜評価基準を開発する研究が認められ、平成18年4月に経済産業省による新工ネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)の申請が通りました。野菜が潜在的に保有している健康への効果(機能性)を医学的に解明するための研究を、ゼブラフィッシュ(注)を用いて日本で初めて開始いたします。最終的に野菜の抗酸化力、免疫力、解毒力の評価を、非破壊で実施できる分析装置の完成を目指しております。

通期の業績見通しにつきましては、上期に予想を上回る利益を計上したものの、今後の天候によるリスクを完全には回避できないため、概ね当初の計画の範囲内に収まると見込んでおります。また上期の売上はほぼ計画水準並でありましたので、既発表の業績予想に変更はなく、連結売上高19,800百万円、連結経常利益600百万円、連結当期純利益348百万円を見込んでおります。

(注)ゼブラフィッシュはマウス、ラットの次に重視すべき第三の実験動物として、米国国立衛生研究所(NIH)が認定しており、医学の世界ではヒト疾患を研究するためのモデル動物として注目が高まっています。



今後の経営戦略

さらなる企業価値向上のために次のことを重点施策課題として取り組んでまいります。

- ① ホール野菜およびカット野菜のわかりやすい生産地の適正表示やトレーサビリティの実施と、野菜の非破壊の中身評価（抗酸化力、解毒力、免疫力）の実現のために基礎データ蓄積と分析の実施
- ② 当社グループと販売先（お客様）仕入先（生産者、荷受と仲卸）との三者一体のさらなる発展および展開と、卸売市場法改正に対する取り組み
- ③ 優良な外食産業との取引増大と中食産業へのさらなる販売力の強化
- ④ 需要の多い首都圏、東海圏、近畿圏の販売力の強化
- ⑤ カット野菜のさらなる品質向上を目指し、ジャスト・イン・タイム生産方式を取り入れ、販売を拡大できる仕組みの構築
- ⑥ IT技術を活用し、青果物の在庫管理および発注システムの構築
- ⑦ 食品リサイクル法への対応はもとより、循環型リサイクルやエネルギー化に対する研究

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

野菜のすべてを熟知し、顧客のニーズに応える

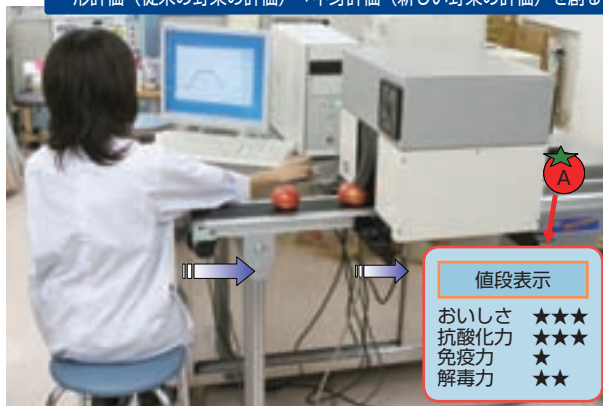


カット野菜の製造工程と製品



非破壊の中身分析機器の開発

形評価（従来の野菜の評価）⇒中身評価（新しい野菜の評価）を創る



中間連結貸借対照表

(単位：千円)

科 目	第3期中 (平成17年9月30日)	第4期中 (平成18年9月30日)	第3期 (平成18年3月31日)
(資産の部)			
流動資産	3,436,200	4,635,606	4,540,142
現金及び預金	1,356,191	2,191,317	2,427,400
売掛金	1,930,759	2,305,929	1,995,334
たな卸資産	62,966	71,559	65,753
その他	110,398	84,640	80,342
貸倒引当金	△24,114	△17,839	△28,688
固定資産	2,829,613	2,954,203	2,803,504
有形固定資産	2,399,331	2,536,442	2,376,024
建物及び構築物	1,041,360	994,818	1,022,806
土地	1,174,665	1,329,497	1,174,665
その他	183,305	212,126	178,552
無形固定資産	36,590	33,151	37,338
投資その他の資産	393,691	384,609	390,141
その他	425,166	416,377	427,591
貸倒引当金	△31,475	△31,767	△37,449
資産合計	6,265,814	7,589,810	7,343,646

(単位：千円)

科 目	第3期中 (平成17年9月30日)	第4期中 (平成18年9月30日)	第3期 (平成18年3月31日)
(負債の部)			
流動負債	2,862,785	3,134,105	2,851,707
支払手形及び買掛金	1,200,770	1,508,809	1,207,163
短期借入金	498,320	480,000	463,800
一年以内返済予定の長期借入金	492,604	361,482	435,484
未払金	421,459	491,686	431,974
その他	249,631	292,128	313,285
固定負債	1,558,017	1,145,029	1,332,977
長期借入金	1,430,809	1,053,951	1,223,129
その他	127,208	91,078	109,848
負債合計	4,420,803	4,279,135	4,184,685
(少数株主持分)			
少数株主持分	—	—	—
(資本の部)			
資本金	303,730	—	759,755
資本剰余金	937,859	—	1,591,242
利益剰余金	594,337	—	797,021
その他有価証券評価差額金	9,201	—	11,188
自己株式	△117	—	△246
資本合計	1,845,011	—	3,158,961
負債、少数株主持分及び資本合計	6,265,814	—	7,343,646
(純資産の部)			
株主資本	—	3,305,177	—
資本金	—	759,755	—
資本剰余金	—	1,591,242	—
利益剰余金	—	954,425	—
自己株式	—	△246	—
評価・換算差額等	—	5,497	—
その他有価証券評価差額金	—	5,497	—
純資産合計	—	3,310,675	—
負債純資産合計	—	7,589,810	—



中間連結損益計算書（要旨）

（単位：千円）

科 目	第3期中	第4期中	第3期
	（自平成17年4月1日 至平成17年9月30日）	（自平成18年4月1日 至平成18年9月30日）	（自平成17年4月1日 至平成18年3月31日）
売上高	9,565,365	9,930,041	19,462,363
売上原価	7,258,329	7,495,799	14,744,641
売上総利益	2,307,035	2,434,241	4,717,722
販売費及び一般管理費	2,025,826	2,100,404	4,063,919
営業利益	281,209	333,837	653,802
営業外収益	8,604	9,511	16,967
営業外費用	27,605	17,895	77,738
経常利益	262,208	325,454	593,031
特別利益	30,811	21,839	55,968
特別損失	28,720	9,065	45,996
税金等調整前 中間(当期)純利益	264,298	338,228	603,003
法人税、住民税及び事業税	109,930	134,687	256,739
法人税等調整額	△5,979	3,326	△16,768
中間(当期)純利益	160,347	200,214	363,031

中間連結キャッシュ・フロー計算書（要旨）

（単位：千円）

科 目	第3期中	第4期中	第3期
	（自平成17年4月1日 至平成17年9月30日）	（自平成18年4月1日 至平成18年9月30日）	（自平成17年4月1日 至平成18年3月31日）
I 営業活動によるキャッシュ・フロー	260,151	251,569	579,943
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	△24,770	△186,634	△40,592
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	△344,731	△275,532	439,859
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額	—	—	—
V 現金及び現金同等物の増加額(又は減少額△)	△109,350	△210,597	979,210
VI 現金及び現金同等物の期首残高	832,952	1,812,163	832,952
VII 現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高	723,602	1,601,566	1,812,163

中間連結株主資本等変動計算書

当中間連結会計期間（自平成18年4月1日 至平成18年9月30日）

	株主資本					評価・換算差額等 その他有価証券評価差額金	純資産 合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己 株式	株主 資本 合計		
平成18年3月31日残高(千円)	759,755	1,591,242	797,021	△246	3,147,773	11,188	3,158,961
中間連結会計期間中の変動額							
剰余金の配当	—	—	△39,010	—	△39,010	—	△39,010
利益処分による役員賞与	—	—	△3,800	—	△3,800	—	△3,800
中間純利益	—	—	200,214	—	200,214	—	200,214
株主資本以外の項目の中間連結会計期間中の変動額(純額)	—	—	—	—	—	△5,690	△5,690
中間連結会計期間中の変動額合計(千円)	—	—	157,404	—	157,404	△5,690	151,713
平成18年9月30日残高(千円)	759,755	1,591,242	954,425	△246	3,305,177	5,497	3,310,675

子会社

名古屋デリカフーズ株式会社

設立 昭和54年10月
資本金 6,000万円
(出資比率) (100%)

東京デリカフーズ株式会社

設立 昭和59年12月
資本金 9,600万円
(出資比率) (100%)

大阪デリカフーズ株式会社

設立 平成2年5月
資本金 6,000万円
(出資比率) (100%)

株式会社メディカル青果物研究所

設立 平成9年9月
資本金 2,400万円
(出資比率) (100%)

デザイナーフーズ株式会社

設立 平成11年11月
資本金 2,000万円
(出資比率) (100%)



中間貸借対照表（要旨）

（単位：千円）

科 目	第3期中 (平成17年9月30日)	第4期中 (平成18年9月30日)	第3期 (平成18年3月31日)
（資産の部）			
流動資産	136,239	953,328	1,260,050
現金及び預金	124,685	914,325	1,249,833
短期貸付金	—	30,000	—
その他	11,554	9,002	10,216
固定資産	1,239,356	1,546,947	1,243,606
有形固定資産	3,807	24,047	5,877
無形固定資産	449	2,552	2,703
投資その他の資産	1,235,100	1,520,347	1,235,026
関係会社株式	1,234,025	1,234,025	1,234,025
長期貸付金	—	285,000	—
その他	1,075	1,322	1,001
資産合計	1,375,595	2,500,275	2,503,657
（負債の部）			
流動負債	50,156	38,129	60,565
未払金	28,101	29,997	27,583
未払費用	515	1,449	5,364
賞与引当金	3,290	2,700	3,150
その他	18,248	3,982	24,466
固定負債	5,960	4,163	5,808
退職給付引当金	5,960	4,163	5,808
負債合計	56,116	42,293	66,373
（資本の部）			
資本金	303,730	—	759,755
資本剰余金	937,859	—	1,591,242
利益剰余金	78,006	—	86,531
自己株式	△117	—	△246
資本合計	1,319,479	—	2,437,283
負債及び資本合計	1,375,595	—	2,503,657
（純資産の部）			
株主資本	—	2,457,981	—
資本金	—	759,755	—
資本剰余金	—	1,591,242	—
利益剰余金	—	107,229	—
自己株式	—	△246	—
純資産合計	—	2,457,981	—
負債純資産合計	—	2,500,275	—

中間損益計算書（要旨）

（単位：千円）

科 目	第3期中 (自平成17年4月1日 至平成17年9月30日)	第4期中 (自平成18年4月1日 至平成18年9月30日)	第3期 (自平成17年4月1日 至平成18年3月31日)
営業収益	159,180	207,943	318,360
営業費用	111,622	141,001	227,293
販売費及び一般管理費	111,622	141,001	227,293
営業損益	47,557	66,941	91,066
営業外収益	43,471	796	43,474
営業外費用	3,916	—	30,475
経常利益	87,112	67,737	104,065
特別利益	1,622	—	1,622
特別損失	—	—	—
税引前中間(当期)純利益	88,735	67,737	105,688
法人税、住民税及び事業税	19,746	6,578	29,257
法人税等調整額	△1,046	1,450	△2,128
中間(当期)純利益	70,035	59,708	78,560
前期繰越利益	7,971	—	7,971
中間(当期)未処分利益	78,006	—	86,531

中間株主資本等変動計算書

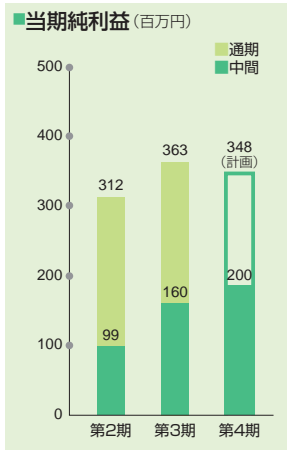
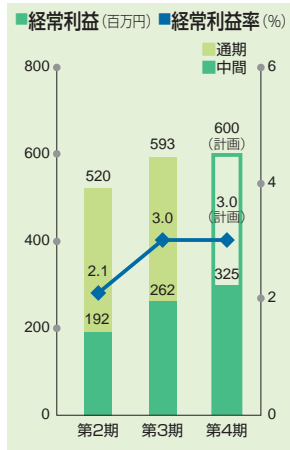
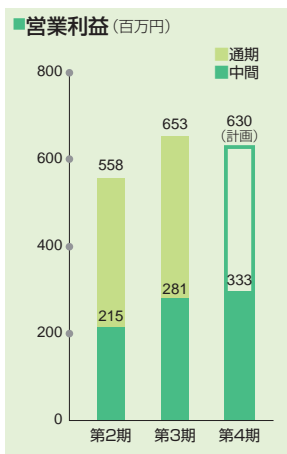
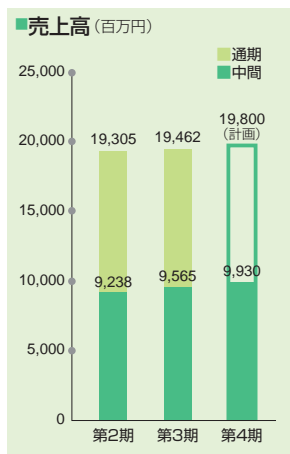
当中間会計期間（自平成18年4月1日 至平成18年9月30日）

	株主資本					純資産 合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己 株式	株主 資本 合計	
		資本 準備金	その他利益 剰余金 繰越利益 剰余金			
平成18年3月31日残高(千円)	759,755	1,591,242	86,531	△246	2,437,283	2,437,283
中間会計期間中の変動額	—	—	△39,010	—	△39,010	△39,010
剰余金の配当	—	—	△39,010	—	△39,010	△39,010
中間純利益	—	—	59,708	—	59,708	59,708
株主資本以外の項目の中間会計期間中の変動額(純額)	—	—	—	—	—	—
中間会計期間中の変動額合計(千円)	—	—	20,697	—	20,697	20,697
平成18年9月30日残高(千円)	759,755	1,591,242	107,229	△246	2,457,981	2,457,981



連結財務ハイライト

	第3期中 (平成17年9月中旬期)	第4期中 (平成18年9月中旬期)	第3期 (平成18年3月期)
売上高 (百万円)	9,565	9,930	19,462
営業利益 (百万円)	281	333	653
経常利益 (百万円)	262	325	593
中間(当期)純利益 (百万円)	160	200	363
総資産 (百万円)	6,265	7,589	7,343
純資産 (百万円)	1,845	3,310	3,158
自己資本比率 (%)	29.4	43.6	43.0



会社概要 / 株式情報 (平成18年9月30日現在)

●会社概要

商号	デリカフーズ株式会社
英文社名	DELICA FOODS CO., LTD.
設立	平成15年4月1日
資本金	759,755千円
従業員数 (連結)	170名 (他、平均臨時雇用者数659名)
本店所在地	〒121-0064 東京都足立区保木間二丁目29番15号
本社事務所	〒121-0064 東京都足立区保木間一丁目23番2号

●株式状況

発行済株式総数	15,605.92株
株主総数	1,626名

●役員 (平成18年9月30日現在)

代表取締役社長	館本 勲 武
常務取締役	鬼頭 利 光
常務取締役	杉 和 也
取締役	澤田 清 春
取締役	岡本 高 宏
取締役	小笠原 真 清
取締役	岡田 和 夫
常勤監査役	尾谷 勝 美
監査役	山口 隆
監査役	田中 清 隆

